

平成19年度アマノリ養殖概況

加藤慎治

漁期前から心配されていた九州委託採苗網については、充分ではなかったもののある程度は確保できた。今漁期から水車採苗網の育苗を始める生産者も見え始めた。

今漁期はスタートから高水温で推移したため、本養殖は平年よりも大幅に遅れてスタートした。第一回の共販入札会は昨年同様中止となり、12月は不作だった昨年とほぼ同様の数量であった。1月は順調に生産が進んだが、県下養殖漁場一円で発生した珪藻赤潮の影響により2月以降は色落ち被害が発生し数量は伸びなかった。

図1に平成19年度、18年度の月別徳島県漁連共販枚数を、図2に年度別共販枚数と平均単価の推移を示した。漁期全体の共販枚数は最近10年間で最も少なかった平成15年度に次ぐ少なさであり、平均単価も最も安かった昨年を若干上回った程度であった。

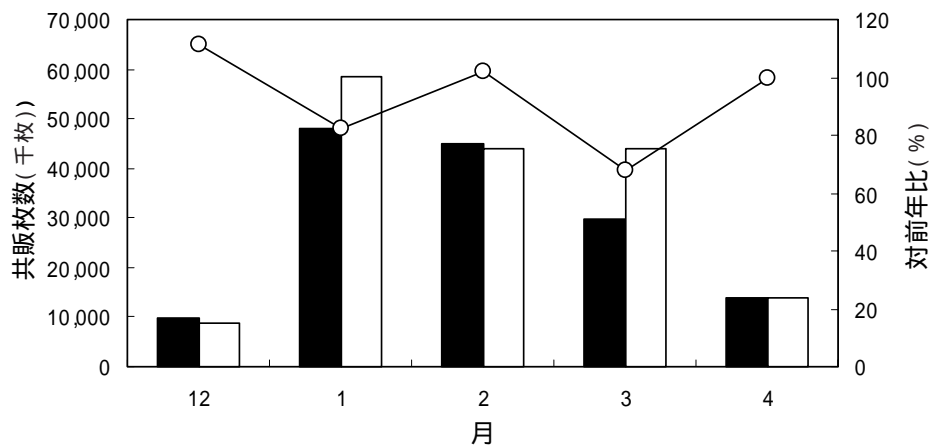


図1 月別共販枚数の推移。 ，平成19年度； ，平成18年度； ，対前年比

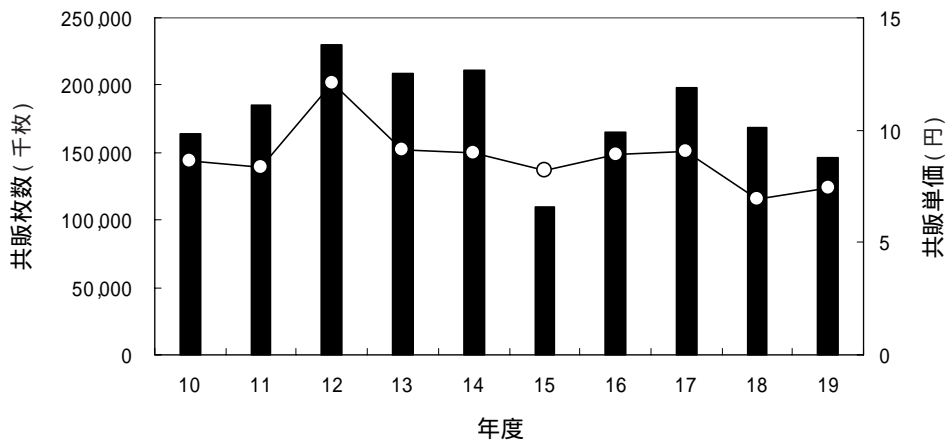


図2 年度別共販枚数と平均単価の推移。 ，共販枚数； ，共販単価